

令和7年度 下山地区わくわく事業 実績報告集



豊田市 地域活躍部
下山支所

わくわく事業とは ～事業概要～

わくわく事業は、地域資源（人材・文化・自然など）を活用して、
「地域課題の解決」や「地域の活性化」に取り組んでいる団体の事業を支援する制度です。

■ 応募資格

- ① 5人以上で組織された団体
- ② 活動が地域の多数の住民に支持される団体
- ③ 政治活動、宗教活動又は営利活動を目的としない団体
- ④ 暴力団と密接な関係を有しない団体

■ 補助上限額

年100万円／団体

令和7年度の下山地区わくわく事業団体一覧

新規	テーマ 設定型※	団体名	補助申請事業名	補助額 (円)
○		アップサイクルしもやま	古着物をアップサイクル	191,000
	テーマ①	NPO法人下山わくわくファーム	下山を好きになってもらう下山体験教室の開催	351,000
		大沼雅楽会	雅楽deコミュニティ活性化事業	205,000
		大沼支障木整備部会	大沼町地内の支障木整備	123,000
	テーマ①	大沼まちづくり部（塚本・鳥屋地区）	ロウバイ花木で大沼の四季を彩る景観づくり	173,000
	テーマ①	想家PROJECT	地域活性のために空き家再生事業で関係人口を増やそう！	274,000
		下山スポーツフェスタ実行委員会	下山スポーツフェスタ	254,000
		しもやまみんなの学び舎*たんぽぽ	みんなでつくる地域と学校	327,000
	テーマ②	花山自治区振興部健康促進隊	第3回花山「あせび」てくてくウォーキング	126,000
		羽布林道整備隊	林道障害木伐採、草刈り、路面、側溝管理	89,000
○		ビレファン	TAKIVI（山村振興フェス）	607,000
		三河湖の自然と環境を考える会	三河湖の自然を理解して楽しむ事業	891,000
		八沢の丘公園整備委員会	旧大沼小学校跡地の公園化整備	947,000
				4,558,000

テーマ設定型わくわく事業とは？

「テーマ設定型」わくわく事業は、**下山地域会議が検討・提言した地域課題解決策の中から、「事業テーマ」を設定し、わくわく事業として事業実施するものです。**

下山地区わくわく事業募集要項で示された事業テーマに共感した住民が、仲間を募って団体を結成して、交付決定後に事業に取り組みます。

～令和7年度募集の事業テーマは、以下の2件です～

事業テーマ	①下山と都市との交流
事業名	山村体験を通じた下山と都市との交流
事業目的	都市住民にとって魅力的で参加しやすく、かつ継続的に参加してもらえるような山村体験イベントを企画し、実施する。

事業テーマ	②下山の未来に向けて
事業名	下山地区住民の健康を保つための機会づくり
事業目的	「幸齢化」社会実現に向け、年齢に関係なく参加しやすく、かつ継続的に参加してもらえるような健康イベントの企画・運営や、市内で開催されている既存コンテンツとのマッチング等を実施する。

1 アップサイクルしもやま

代表者：柴田 奈穂子

活動場所：下山交流館

事業名：古着物をアップサイクル



どのような「地域課題の解決」や「地域の活性化」を目指しましたか

古着物を犬用和服へアップサイクルすることで、処分に困る着物の有効活用と新たな価値の創出を図りました。あわせて、イベントや地域店舗での無料貸出を通じて関心を高め、下山地域の活性化につなげることを目指しました。

具体的にどのような活動を行いましたか

地域の古着物を募集し、100着以上を活用して犬用和服のリメイクワークショップを3日間開催しました。講師の指導のもと20着以上を制作し、完成品は香恋の館で無料レンタルを実施しています。今後も、地域に眠る古着物のさらなる活用を検討していきます。



(目標に照らして) どのような成果がありましたか

地域の古着物を新たな形に再生し、有効活用を図ることができました。また、犬用着物をイベントや地域店舗で活用することで取組の周知を進め、多くの方に下山に足を運んでいただけたと思います。

活動を通して感じたこと、地域に伝えたいこと、会員募集等

古着物が想定以上に集まったことから、地域には未活用の資源が多く存在することを実感しました。今後は古着物に限らず、さまざまな地域資源のアップサイクルに取り組んでいきたいです。

2NPO法人下山わくわくファーム



代表者：祖父江 奈々子

活動場所：下山地区全域

事業名：下山を好きになってもらう下山体験教室の開催

どのような「地域課題の解決」や「地域の活性化」を目指しましたか

本活動は、下山地域の魅力を広める体験プログラムを通じ、交流人口や関係人口の増加を目指しました。参加者には、下山の自然や文化、生活の体験をしていただくとともに、地域住民との交流を深める機会を創出しました。これにより、地域全体の活力向上や、定住人口の増加につながることが期待されています。

具体的にどのような活動を行いましたか

防災キャンプを開催し、火起こしや山水の濾過などの体験を通じて実践的な防災知識を学びました。また、テントや簡易トイレの使用により災害時の備えを実感するとともに、自然体験や食文化体験を通じて下山の魅力に触れる機会となりました。



（目標に照らして）どのような成果がありましたか

防災キャンプでのブッシュクラフト体験を通じて、火起こしや水の濾過など災害時に役立つスキルを習得し、防災意識の向上につながりました。また、自然体験や食文化体験を通じて下山の魅力を実感するとともに、自然とのつながりや地域交流を深める機会となりました。

活動を通して感じたこと、地域に伝えたいこと、会員募集等

下山は、自然を活かした多様な活動が楽しめる素晴らしい地域です。子どもから大人まで、誰もが楽しく暮らせる場所を目指しています。自然と共に生き活きと過ごせるこの地域の魅力を、より多くの方に知っていただきたいです。ボランティアスタッフや会員も随時募集中です。ぜひ、一緒に下山の魅力を広めましょう！



3大沼雅楽会

代表者：岩月 錦也

活動場所：大沼自治区集会所

事業名：雅楽deコミュニティ活性化事業

どのような「地域課題の解決」や「地域の活性化」を目指しましたか

大沼雅楽は131年続く下山地区の無形民俗文化財ですが、コロナ禍で会員が減少し存続の危機にあります。これを守るために、小学生に伝承し、学校行事や地域の発表会で披露することで、地域住民に雅楽の魅力を再認識してもらい、地域の活性化を目指しました。

具体的にどのような活動を行いましたか

小学校の雅楽クラブでは、生徒への指導や教員との勉強会を合わせて計30回実施しました。また、自治区集会所では小中学生向けに巫女舞の練習会や発表会を計9回、さらに初の取組として、下山地区全域の地域住民を招いた雅楽・巫女舞発表会を実施し、羽布地区敬老会、豊田市博物館で開催された民俗芸能発表会にも出演しました。



(目標に照らして) どのような成果がありましたか

雅楽・巫女舞発表会には100名以上が来場し、多くの好意的な声を通じて大沼雅楽の価値と継承の重要性が地域に再認識されました。また、発表機会の増加や学校・地域行事での交流を通じて世代間のつながりが生まれ、地域コミュニティの活性化につながりました。

活動を通して感じたこと、地域に伝えたいこと、会員募集等

活動を通して、雅楽を地域で支え次世代へ継承していく大切さを実感しました。今後も下山地区の行事で小学生とともに発表を行いたいと考えています。雅楽に興味のある方や共演の機会がありましたら、ぜひお気軽にお声がけください。





4大沼支障木整備部会

代表者：川村 康二

活動場所：大沼町地内

事業名：大沼町地内の支障木整備

どのような「地域課題の解決」や「地域の活性化」を目指しましたか

塚本農道にて、車の屋根に木の葉が当たりそうな状況があり、気になりつつも大きな苦情にはなっていませんでした。実際に何人かに話を聞くと、不便や不安を感じている人が一定数いることが分かり、この課題への気づきが取組のきっかけとなりました。

具体的にどのような活動を行いましたか

取組には地域の理解と後押しが不可欠であるため、周辺住民に聞き取りを行ったところ、枝葉が車に当たることを気にしている声が確認できました。今後さらに枝が伸びれば支障が大きくなることが想定されるため、対応の必要性が明確となり、伐採を実施しました。



(目標に照らして) どのような成果がありましたか

地域に働きかけたことで賛同が得られ、支障木伐採への協力につながりました。また、作業後は見通しが大きく改善し、地域環境の向上に寄与しました。

活動を通して感じたこと、地域に伝えたいこと、会員募集等

参加者同士の交流や何気ない会話を通じて関係性が深まり、新たな気づきや課題の発見につながった。また、複数人で関わることで視点が広がり、課題解決につながる可能性が高まることを実感しました。

5大沼まちづくり部(塚本・鳥屋地区)

代表者：松井 和夫

活動場所：大沼町塚本・鳥屋地内

事業名：ロウバイ花木で大沼の四季を彩る景観づくり



どのような「地域課題の解決」や「地域の活性化」を目指しましたか

景観整備や農園活用を通じて地域住民の交流を促進し、活気の向上と地域活性化を図る取組です。あわせて、休耕田の活用や沿道景観の再生により来訪者の増加を目指すとともに、人が気軽に集える場を創出し、高齢者の生きがいづくりにもつなげています。

具体的にどのような活動を行いましたか

花木の植栽に向けた草刈りや倒木除去、法面整備、獣害対策などの環境整備と、花桃・ロウバイの維持管理を実施しました。あわせて、鳥屋農園の立上げとして獣害対策や区画整備、土づくりを行うとともに、草刈りや防護柵設置などの維持管理に取り組みました。



(目標に照らして) どのような成果がありましたか

植栽から5年が経過し、ロウバイは成長して開花が見られるようになり、散歩などで訪れる人も増えてきましたが、見頃として定着するには今後も時間を要する状況です。また、本年度に立上げた鳥屋農園では、移住者と地元住民との交流が生まれ、地域の貴重な交流の場となり始めています。

活動を通して感じたこと、地域に伝えたいこと、会員募集等

コスモス畑で利用していた休耕田を、鳥屋農園として立上げました。住宅入居の方など5組が応募され、家族で菜園を楽しんでもらっています。まだまだ会員募集中なので、興味のある方はぜひご来園ください。



6想家PROJECT

代表者：木下 貴晴

活動場所：羽布町地内

事業名：地域活性のために空き家再生事業で関係人口を増やそう！



どのような「地域課題の解決」や「地域の活性化」を目指しましたか

定住促進や空き家の利活用、関係人口の創出を目的として本事業に取り組みました。増加する空き家という地域課題に対し、古民家を活用したワークショップを通じて来訪者を呼び込み、地域の魅力を体験する機会を創出しました。

具体的にどのような活動を行いましたか

空き家を活用し、新米の試食会や障子の張替ワークショップを開催して、地域の魅力発信と交流の場を創出しました。あわせて排水修繕を行い、安全性と利便性を高め、今後の継続的な利活用につなげました。



（目標に照らして）どのような成果がありましたか

来訪者や参加者との新たなつながりが生まれ、関係人口の創出につながりました。また、交流を通じて継続的な関わりへの意欲が高まり、今後のリピーターや移住検討者の創出が期待されます。

活動を通して感じたこと、地域に伝えたいこと、会員募集等

地域内外の人々が自然につながる交流拠点として機能しており、今後はさらに居心地の良い場となるよう環境づくりと活動の充実を図っていきます。そのためにも、この想家の取り組みに共感し、一緒に関わっていただけるスタッフを広く募集しております。お気軽にご参加ください。

7下山スポーツフェスタ実行委員会

代表者：川合 晃司
活動場所：下山地区全域
事業名：下山スポーツフェスタ



どのような「地域課題の解決」や「地域の活性化」を目指しましたか

下山地区が持続可能な地域であるためには、住民同士の楽しい交流と健康的な生活が不可欠であり、次世代の子どもたちに地域への愛着を育むことが重要です。そのため、年齢に関係なく誰でも参加できるスポーツイベントを開催し、地域のつながりを広げ、下山に愛着を持つ人々の輪を広げることを目指しています。

具体的にどのような活動を行いましたか

第76回下山地区体育大会とあわせ、地区住民全員を対象としたイベントを開催し、地域で活動する豊田市ジュニアマーチングバンドの演奏や謎解きゲームなどを行いました。多くの住民の参加を得るとともに、ダイジェスト動画を公開し、地区外にも広く下山をPRしました。



（目標に照らして）どのような成果がありましたか

イベントでは、ジュニアマーチングバンドの演奏を通じて子どもたちの関心を高め、入団につながる動きが見られたほか、五平餅の提供により下山グルメのPRにもつながりました。また、中学生の参加による盆踊りで会場の一体感が高まり、動画発信を通じて地域の魅力を広く共有する機会となりました。

活動を通して感じたこと、地域に伝えたいこと、会員募集等

参加者が減少している体育大会と同時開催することで参加促進を図り、「元気な下山」を合言葉に地域全体で盛り上がる機会の創出を目指します。あわせて、子どもから大人まで同じ時間を共有することで、下山への愛着を育てる機会になればと考えてます。

8しもやまみんなの学び舎＊たんぽぽ

代表者：志賀 祐子

活動場所：下山地区全域

事業名：みんなで作る地域と学校



どのような「地域課題の解決」や「地域の活性化」を目指しましたか

R4年に解散した地域の子ども会の代わりになるような活動を目指しました。ただし、子ども会のように小学生の親子に限らず、未就学児の親子にも参加していただくことで、子育て世代の孤立防止にも努めました。交流会では地域の方に協力を求め、広く地域住民と知り合うことで居心地の良い地域作りを目指しました。

具体的にどのような活動を行いましたか

11月に餅つき交流会、12月に上映会を開催しました。交流会では地元生産者の話を通じて学びを深めるとともに親睦を図り、上映会でも感想共有を通じて参加者同士の交流を深めました。



（目標に照らして）どのような成果がありましたか

たんぽぽの活動を通じて子育て世代の交流の場を創出し、孤独感の解消や「地域で子育て」の実感につながりました。また、農家や中学生ボランティアの参加により交流が広がり、居心地の良い地域づくりに寄与しました。

活動を通して感じたこと、地域に伝えたいこと、会員募集等

たんぽぽの活動は4年目を迎え、「子ども商店街」や「六所で遊ぼう」、「餅つき交流会」などを通じて、子ども会の代わりとなる交流の場を提供しており、参加者の笑顔に支えられながら活動を続けています。また、たんぽぽの活動は地域のどなたでも参加できます。1人でも多くの方との出会いをお待ちしています！

9花山自治区振興部健康促進隊



代表者：恩田 友明

活動場所：花山小学校周辺

事業名：第3回花山「あせび」てくてくウォーキング

どのような「地域課題の解決」や「地域の活性化」を目指しましたか

人口流出が進む中、下山地区・TTC-S・花山自治区民がウォーキングを通じて健康増進と交流を図り、継続的なつながりの場として定着させるとともに、相互の関係を深めることで、活力ある地域づくりにつなげることを目指しました。

具体的にどのような活動を行いましたか

第3回花山「あせび」てくてくウォーキングでは、対象を下山在住者に加え、下山に在住されていた方にも拡大し、コースを体力に応じた2種類に見直しました。また、健康講座やベジチェックの実施、竹ストック製作による運動促進を取り入れました。あわせて、「あせび」ロードの整備として植栽の保全や補植を行い、継続的な環境づくりに取り組んでいます。



(目標に照らして) どのような成果がありましたか

参加申込は91名、当日は76名が参加し、花山以外からの参加者も増加するなど、参加者の広がりが見られました。一方で、体調不良等による欠席もありましたが、健康講座やベジチェックには多くの関心が集まり、住民の健康意識の高さがうかがえました。

活動を通して感じたこと、地域に伝えたいこと、会員募集等

ウォーキングを通じて「あせびロード」や「蛇ねぶり岩」の認知向上を図るとともに、参加者募集の対象拡大について検討してきます。また、好評であったベジチェックについては、今後も継続実施を考えています。



10羽布林道整備隊

代表者：安藤 実

活動場所：羽布自治区内の林道

事業名：林道障害木伐採、路面・側溝管理

どのような「地域課題の解決」や「地域の活性化」を目指しましたか

山林に整備された林道や作業道の維持が行き届いていない課題に対し、利用頻度の高い路線を中心に地域住民による維持作業を実施しています。あわせて、活動時に限らず日常的に自主的な道路維持が行える人材の育成を目指しています。

具体的にどのような活動を行いましたか

道路に堆積した落ち葉の除去について、昨年の方法を改善し、重機で表層を除去した後にブローで清掃を行いました。その結果、約4kmの道路を2回の作業で効率的に完了することができました。また、大雨で堆積した側溝の土砂や石も確認し、底部まで清掃するなど、路面・排水機能の維持に取り組みました。



▲作業前



▲作業後



▲作業前



▲作業後

（目標に照らして）どのような成果がありましたか

当初は年間4回の作業を計画していましたが、メンバーの都合が合わず計画を見直し2回に変更しました。また、天候不良による日程変更もあったものの、最終的には晴天のもと作業を実施し、路線全体をきれいに整備することができました。これは作業方法の工夫による成果であると考えます。

活動を通して感じたこと、地域に伝えたいこと、会員募集等

路面清掃により落ち葉一つないきれいな状態となりましたが、自然環境のため状況は変化しやすい面もあります。そのような中でも、地域をきれいに保とうとする協力の意識は着実に広がっていると感じられます。

11 ビレファン

代表者：川合 真裕

活動場所：下山地区

事業名：TAKIVI（山村振興フェス）



どのような「地域課題の解決」や「地域の活性化」を目指しましたか

イベント「TAKIVI」を通じて若者同士や地域内外の交流機会を創出し、ネットワーク形成と地域への関心向上を図りました。あわせて、将来的な担い手育成や新たな挑戦の創出につなげ、持続的な地域活性化を目指しました。

具体的にどのような活動を行いましたか

豊田市山村部の活性化を目的に、地域内の出店者や出演者を中心とした交流型イベント「TAKIVI」を開催しました。事業者や個人の交流により新たな連携の機会を創出するとともに、地域外からの協力者も迎え、山村地域の魅力や取組を広く発信する場としました。



（目標に照らして）どのような成果がありましたか

本事業の実施により、豊田市山村部全体の機運醸成と地域の魅力発信につながりました。当日は500人以上が来場し、高い満足度のもと交流や体験を通じて新たなつながりが生まれ、今後の関係人口創出にも寄与する成果となりました。

活動を通して感じたこと、地域に伝えたいこと、会員募集等

今回の取組は小さな一歩ではあるものの、山村部において「若者の力で新しい挑戦ができる」という前向きなメッセージを発信する意義のある機会となりました。また、イベントで生まれたつながりや気づきは、地域に広がり始めており、今後の新たな挑戦につながる事が期待されます。今後は「ALL豊田」「ALL山間部」の意識のもと、地域を越えた連携を進め、仲間を増やしながらか地域の未来を共に創っていきたくと考えています。



12三河湖の自然と環境を考える会



代表者：川合 弘太

活動場所：三河湖周辺

事業名：三河湖の自然を理解して楽しむ事業

どのような「地域課題の解決」や「地域の活性化」を目指しましたか

冬季の観光客不足という課題に対し、三河湖のワカサギを活用した誘客促進に取り組みました。特に、通常より大型の「三河湖デカサギ」のブランド化を推進し、冬の観光資源としての魅力向上を図りました。あわせて、自然環境の保全と活用を両立しながら、観光客および交流人口の増加につなげることを目指しました。

具体的にどのような活動を行いましたか

最新設備と自作装置を活用したワカサギ孵化事業を実施するとともに、宿泊連携によるプラン提供やキッチンカーでの調理サービス、SNSでの情報発信を行いました。あわせて、清掃活動や竹魚礁づくりなどの環境保全活動を継続的に実施し、多くの参加者を得たほか、地元10事業者へのアンケート調査も行った。



(目標に照らして) どのような成果がありましたか

孵化実績は目標の8,000万粒に対し、孵化数6,500万尾、孵化率81%という高い成果を達成しました。名古屋テレビ「ドデスカ！」放映やSNSでの月間20~30万回の閲覧により、三河湖の知名度は大きく向上しました。周辺事業者への調査では、事業認知度90%、連携意欲100%という極めて高い支持を得ています。また、ワカサギダービーには60名が参加し、関係人口の拡大に繋がりました。

活動を通して感じたこと、地域に伝えたいこと、会員募集等

孵化率向上の成果があった一方で、釣果の減少など自然相手の課題も明らかとなりました。今後は採卵施設の整備などを進め、補助金に依存しない持続可能な取組を目指すとともに、挑戦を通じた地域の活性化を図ります。



13八沢の丘公園整備委員会

代表者：鈴木 悟

活動場所：大沼地区

事業名：旧大沼小学校跡地の公園化整備



どのような「地域課題の解決」や「地域の活性化」を目指しましたか

子どもから高齢者まで集える公園広場の整備により、交流とにぎわいの創出を目指しました。また、小学校跡地を活用した憩いの場づくりを通じて世代間交流を促進し、地域内外からの参加を広げることで地域の活性化につなげていきます。

具体的にどのような活動を行いましたか

施設や遊具の整備・修繕を行い、安全・安心に利用できる環境を整備しました。また、草刈りや間伐、花壇整備などにより景観を向上させ、憩いの場としての魅力を高めました。さらに、体験イベントの開催や学校・広報媒体での発信を通じて地域内外からの参加を促し、下山・大沼ファンの創出につなげていきます。



活動を通して感じたこと、地域に伝えたいこと、会員募集等

ピザづくり体験や演奏会、星空観察会などのイベントを実施し、地域内外から約130名の参加者を集めました。また、ドッグランや散歩コースの利用者が増加し、日常的なにぎわいの創出につながりました。さらに、施設整備へのボランティア参加や各種活動を通じて地域外からの参加も広がり、下山ファンの創出に寄与しています。

（目標に照らして）どのような成果がありましたか

「公園整備に終わりなし」「自分たちも楽しみながら」を合言葉に活動しています。地域内外を問わずどなたも大歓迎です。公園整備で下山の自然と一緒に楽しみませんか！